



令和8年10月14日

広島大学 原爆放射線医科学研究所
2026年度企画展示『地図を歩いて知るヒロシマ』
メディア向け内覧会を開催します（10/19開催）

情報提供

広島大学原爆放射線医科学研究所は、10月20日（火）から広島大学医学部医学資料館において、2026年度企画展示「地図を歩いて知るヒロシマ」を開催します。本展示では、「地図」を通して、原爆被爆の実相や被爆の記憶を伝えるとともに、原爆に関する研究の歩みを紹介します。

展示開始に先立ち、10月19日（月）14時から、メディア向け内覧会を開催いたします。当日は、同研究所の久保田明子特命准教授が、展示内容を解説しますので、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

記

<メディア向け内覧会について>

○ 日 時： 令和8（2026）年10月19日（月）14時～

○ 場 所： 広島大学 医学部 医学資料館（広島市南区霞 1-2-3）

※ 備 考：

- ・メディアの方で内覧会への参加を希望される場合は、別紙により事前にお申し込みください。
- ・資料館内の撮影が可能です。

<企画展示について>

○ 期 間： 令和8（2026）年10月20日（火）～令和9（2027）年1月15日（金）
10:00～16:00（土日祝日・年末年始を除く）

○ 場 所： 広島大学 医学部 医学資料館（広島市南区霞 1-2-3）

○ 来場方法： 入場無料 事前予約不要

○ 企画主旨

原爆被爆の証言は、まず「あのとき、どこにいたのか」から語られます。それは、地図上にあのときの自分を位置付ける、ということで、そこから、さまざまな物語が始まり、私たちは多くのことを知ります。「ヒロシマを知る」ということは、一面、「地図を歩く」ことでもあります。

原爆の学術研究の面でも、地図は重要でした。被災の実相を究明するとき、被爆の前と後の違いをはかるとき、あるいは、被爆者医療を考えると、被爆者の援護や法整備を検討するとき、疫学研究を展開するとき、放射線の問題を考えると、いつも現場には地図がありました。

また、「あのとき」を経験していない現代の私たちは、被爆を継承しようとするとき、地図が重要な手がかりとなり、被爆の問題と自分を繋ぐパスポートとなります。

本展示では、こういったことを意識して、地図をキーワードとした展示を行います。

【お問い合わせ先】

広島大学原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部
（担当：久保田）TEL:082-257-5877

発信枚数：4枚

(別紙)

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学広報グループ 行

広島大学 原爆放射線医科学研究所
2026 年度企画展示『地図を歩いて知るヒロシマ』
メディア向け内覧会を開催します（10/19開催）

<メディア向け内覧会>

○ 日 時： 令和8（2026） 年 10 月 19 日（月） 14 時～

○ 場 所： 広島大学 医学部 医学資料館（広島市南区霞 1-2-3）

☐ ご出席

☐ ご欠席

貴 社 名 _____

部 署 名 _____

ご 芳 名 _____（計 人）

電 話 番 号 _____

※誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、10月16日（金）9：00 までに
ご連絡願います。

※当日、お車でお越しの際は、構内の駐車場をご利用ください。日時によっては混み合うこ
とがありますので、なるべくお早めにお越しくださいますようお願いします。

会場案内図（霞キャンパス）



お車でお越しの場合、メインルート（正門出入口）からの入構は大変混み合います。
他の出入り口（★印）からも入構いただけますのでご利用ください。

地 図 を 歩 い て 知 る ヒ ロ シ マ

特別公開

近距離被爆生存者研究動画

今年6月、長崎で開催された第66回原子爆弾後障害研究会で公開した動画「近距離被爆生存者78名―被爆の瞬間からの生涯」を、今回、広島で初めて限定公開します。

特集 復刻地図の世界

広島のお舗古書店「あき書房」は、多くの古い広島地図を精力的に復刻していますが、今回はその世界を皆様に紹介したいと思います。

会 期

2026年 10月20日(火)

～2027年 1月15日(金)

会 場

広島大学医学部
医学資料館

広島大学霞キャンパス(大学病院前)

入 場 無 料

主催 広島大学原爆放射線医科学研究所

共催 放射線災害・医科学研究拠点

(広島大学・長崎大学・福島県立医科大学)

協力 広島大学医学部

企画・製作 原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部